

## 石川県の中世井戸について 井戸内部施設と掘方の関係性についての一考察

竇積 芳浩

井戸の研究は長年の成果がある。それらの研究において、井戸側の素材や構造が井戸の型式分類やその後の検討において重要である場合が多い。ところが石川県内の井戸の発掘状況を見てみると井戸側の部分の施設が無いものが多い。これらの井戸の掘方を見てみると円筒形・擂鉢型に掘り下げているものの他に、途中で掘る方向を変えるもの、段をつけて掘っているものがある。素掘りにするならば掘る方向を変えたり、段を付けたりするような手間をかける必要はなく、掘る方向を変えたり段をつけるのは、何らかの井戸側施設を設ける際の手間ではないだろうかと考えた。そこで、井戸の型式と掘方の断面形の関係性について見ていくことにした。石川県内で検出された井戸遺構で、井戸側施設の分かるものを取り上げ、井戸の型式として石組の井戸、方形板組型の井戸、積み上げ型の井戸、刳抜き型の井戸に分類した。さらに、これらと同じ井戸側を持つものを他の時代にも求め資料を補強した。また取り上げた井戸の掘方断面形の分類については19種類に分類できた。さらにこの19種類を段を持たず掘る向きも変えない掘方を 群、途中で掘る向きを変える 群、段を一回つけるものを 、 群と 群の要素をともに持つものを 群、段を2回以上つけるものを 群と大きくとらえた。

その結果井戸の型式と掘方には明確な関係性は見えないものの、検出例が少ない 、 、 群には石組が検出されなかった。これらは例外的な掘方といえるが、木を素材とする井戸側施設を持っていた可能性が強いといえると考えられる。